

# スマートで強靱なグローバルリーダーを養成

一橋大学長 山内 進氏

**本誌** 一橋大学は一四〇年ちかひ歴史と伝統を有しているのですね。

**山内** 本学の起源は一八七五年に後の初代文部大臣、森有礼が私塾として商法講習所を銀座尾張町に開設したことに始まります。勝海舟や渋沢栄一も開設に賛同した商法講習所はその後、東京商業学校となつて一八八五年に神田一ツ橋に移転しました。そして、東京商業学校は高等商業学校、東京高等商業学校となり、商業活動に関わる日本の実学教育の重要な担い手に成長、東京高等商業学校は一九二〇年に大学に昇格し、東京商科大学となりました。

さらに東京商科大学は一九四九年に名称を一橋大学に変更、一九五一年には商学部、経済学部、法学部、社会学部の四学部体制を整え、現在に至っています。その間、一九五三年には各学部の上に四研究科からなる大学院が設置され、一九九六年に言語社会研究科、一九九八年に国際企業戦略研究科が新たに加われました。また、二〇〇四年からは法学研究科の下に法科大学院、二〇〇五年からは国際・公共政策大学院がスタートしており、現在の本学は学部生が四四四四人、大学院生が二〇〇六

人、合計六四五〇人の学生が在籍しています。

## 商社などグローバル企業に多数の人材を輩出

**本誌** 学長就任時に一橋大学の養成する人材のイメージを「スマートで強靱なグローバルリーダー」としましたか。

**山内** 私は、学長になってから、「スマートで強靱なグローバル一橋」をスローガンにしています。スマートという言葉はハーバード大学のジョセフ・ナイ教授がスマートパワーという概念をハードとソフトの巧みな融合として提唱したのと同じような意味で使っています。私が、この言葉に託したのは、質の高さと国際性のイメージです。本学は前身の東京商科大学時代から産業界のリーダーを育てるということを基本としてきており、商社をはじめ、世界的に活動する企業に多数の人材を輩出、そのトップにも本学出身者は少なくありません。

また、強靱さを加えたのはスマートだけでは線が細いと誤解を受けかねないと考えたからで、リーダーたる者は自分のスタイルを持っていて、そのスタイルを貫き、自分の考えを実行する精神力が必要です。賢くて恰好いい、そして強いリーダーを育てたいと思っています。

**本誌** このスローガンの核となるのが一橋大学伝統のリベラリズムなのですか。

**山内** 一橋大学の精神的なバックボーンになっているのがリベラリズムで、このリベラリズムのもとになるリバティーという言葉には、他者の許可や拘束なしに、能動的に自分たちなりに工夫して自由にやってみるというニュアンスが込められています。在野の精神ともいえますが、何事も国や政府などに頼らず、民間で互いに個を尊重しながら力を合わせて解決していくとする考え、態度を表しています。経済を大事にしてきた本学にとっては、政治的よりは経済的意味合いが強い自由主義です。

**本誌** 一橋大学の卒業生にはグローバルに活躍している経済人が多いですね。

**山内** 本学でリベラリズムと並んでよく知られているのが「キャプテンズ・オブ・インダストリー」という標語で、これは「産業界において



山内進（やまうち・すすむ）氏

1949年生まれ、北海道小樽市出身。1972年・一橋大学法学部卒業。1974年・一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。1977年・一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学（1987年・一橋大学法学博士）。同年・成城大学法学部助手。1978年・同専任講師。1981年・同助教授。1988年・同教授、1990年・一橋大学法学部、大学院法学研究科教授。2004年・同大学院法学研究科長、法学部長。2006年・一橋大学副学長。2010年・一橋大学学長に就任。著書に「掠奪の法観念史」「決闘裁判 — ヨーロッパ法精神の原風景」「北の十字軍」など。学部／商学部、経済学部、法学部、社会学部 学生数(研究科を含む)／6,450人(2011年5月1日現在)。

くりを行っていきます。

環境を作ることも必要だと思えます。武蔵野の面影を残す深い緑に蔽われた本学のキャンパス（東京都国立市、小平市）と、それに溶け込むように佇む建物群は日本の中のヨーロッパと譬えられており、本学スローガンのスマートという言葉に、この美しいキャンパスのアピールも込めています。今後もキャンパスの環境を一層整え、世界中の人と情報が集い、理性と感性が共鳴し合う、アジアでナンバーワンの魅力的な大学づくりを行ってまいります。

「キャプテンたらん」という目標を表したものです。本学創設以来の使命は国際的に通用する産業界のリーダーたり得る人材の育成で、商法講習所の時代から単に商いを身に付けるだけではなく、騎士道精神をも兼ね備えた実業人の育成を目指してきました。スマートなグローバルリーダーに求められるのは、理知であるとともに強い精神力を持ち、広い視野で問題を発見、その問題を解決していく実行力だと考えています。

山内 海外からの留学生の受け入れについては二〇一一年一月現在、五〇を超える国々から六五〇人を超える留学生が在籍しており、これは全学生の約一〇％となっています。また、留学生の派遣についても、二〇一二年度は七一人の学生が奨学金を得て、海外の大学に長期留学することになっています。

いと考えています。一方、研究活動でも一〇〇を超える海外の大学あるいは研究機関と学術交流協定を結んでいます。

本誌 一橋大学のゼミナール制度は留学生にも好評ですね。

山内 本学では、伝統である少人数教育のゼミナール制度と世界水準レベルの講義を軸として、学生の基礎学力を高い水準で確保する教育を実践しています。とくに本学のゼミナールは、問題の発見能力やその解決能力、討論力、説得力、コミュニケーション能力などが知らず知らず身に付くと高い評価を受けています。

## 日本の中のヨーロッパと譬えられるキャンパス

本誌 経済界などから大学はもつと教養教育に力を入れてほしいという要望がありますが。

山内 企業のトップにのぼりつめた人などが、海外で自らの教養のなさを痛感することがあるといえます。本学では、そのためのカリキュラムの充実などを行っています。教養はさまざまな体験、経験を経て身に付くもので、良いキャンパスつまり環境を作ることも必要だと思えます。